

## 北河内病床機能懇話会概要

日時：平成 29 年 8 月 30 日（水） 14:00～15:30

場所：枚方市役所 別館 4 階 特別会議室

### ■議題 「地域医療構想の策定について」

（資料に基づき、枚方市保健所 保健企画課から説明）

（資料 1）

- ・ 医療計画の見直し等に関する検討会
- ・ 第 7 次保健医療計画の見直しの概要について
- ・ 平成 29 年度 次期保健医療計画（第 7 次）策定スケジュール（案）
- ・ 地域医療構想について

（主な質問・意見等）

○ なし

### ■議題 「病床機能報告について」

（資料に基づき、枚方市保健所 保健企画課から説明）

（資料 2）

- ・ 病床機能報告集計（集計日：2017/2/17）における平成 26 年度から平成 28 年度の病床機能報告数と必要病床数の比較について
- ・ 経年的にみる北河内医療圏域病床機能報告（医療機関別）について
- ・ 北河内二次医療圏における DPC 参加病院の診療実績（MDC 別全患者）
- ・ DPC データに基づく病床機能別割合について

（主な質問・意見等）

○資料として示されている DPC データに基づく病床機能別割合について、現在の病床機能報告では、全床「急性期」として報告しているが、DPC データで見れば、回復期や在宅・療養期に当たる患者も多く入院していることがわかり、「急性期」を無理やり転換しなくてもいいという結論につながる。このことについては、国にも情報提供しており、認識いただいている。全ての医療機関で同様のデータを出してくれば、現状把握につながるのではないか。

○地域包括ケア病棟との関連等、「回復期」の役割認識がどのようにとらえられているのかということも考える必要がある。また、圏域内でも市によって医療提供体制のバラツキがある。そうした地域格差が踏まえられるべきであると考えます。

- いずれの病院でも、実際には急性期病棟に幅広く入院している。救急告示の病院の数から考えても、北河内は大阪市について多い。圏域の特徴も踏まえて考えるべきである。
- 北河内は他地域とは全く違う。府全体で共同歩調というのはどうか。できるだけ個々の病院について、どれだけ機能のバランスが取れているのか、機能調整が必要なのかといった状況を把握し、調整することが必要である。
- 近い将来に「介護医療院」が示されており、介護療養病床との位置づけ等が制度化される。制度に合わせた対策を考える必要がある。
- 高齢者が増えれば、救急が必要になるのは明らかである。現状のデータを持ち寄ってみることで必要病床数との比較ができるが、急性期病院が DPC データに基づいて半分を病床転換すればよいという議論にはならない。
- おそらく、実態はバランスが取れているところが多いと思われる。しかし、急性期が必要という結論は変わらない中、こうしたデータを示すことで、急性期を減らせという議論の加速につながらないかということ懸念する。バランスが適正であるということを示す資料として、こういう見せ方が可能だということ事務局は留め置くこと。
- 高齢者率が増加していくという人口推計から考えると、高度急性期が必要になる。留意はしておかなければならない。
- 国でも病床単位での機能報告を検討している。府の意見を代表して言う立場にはないが、国の動きを受けて府がどう考えるかに合わせていくということでもよいのでは。
- 診療所の立場から見れば、入院から在宅への流れや、在宅から急性期・後方支援病院へのつながりといった病診連携が課題。連携がうまくできるよう、病院がやりやすい方向に向かえばよい。データを出すことで逆手に取られて急性期が減るのでは、地域にとってマイナスになる。
- 内科を見れば、おそらく提示のあった資料と同様のデータが出る。現状を把握することはいいと思うが、それを見ることで転換せよとはいえない。そもそも病床は足りているのかという議論になる。
- 病院の立ち位置を認識することは、よい方向を考えていくために重要。転換するもよし、しないもよしである。
- データを取るのはいいが、取り扱いは経営にもつながるため難しい。国からは、公立病院について 2025 プランが示されるという動きもある。国が進めようとしていることに合わせて、どういう調査をするかを考えていかないと齟齬が出る。
- 悉皆性のあるデータとして病床機能の分布は把握しておいたほうがいいが、データの一人歩きにも留意して、調査の具体性・内容については慎重に考えていきたい。

## ■議題 「病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備事業について」

(資料に基づき、枚方市保健所 保健企画課から説明)

(資料3)

- ・ 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備事業について
- ・ 平成29年度地域医療介護総合確保基金(医療分) 個別事業調書

### (主な質問・意見等)

○基金の使途が限られていることで、二の足を踏んでいると考えられる。みんなが圏域において急性期は大事だと思っている中で、病床機能の方向性が見えないところが基金の執行率の低さにつながっている。本日は、大阪府は来ていないようだが、別の使途を検討していただきたい。例えば、お互いの病床機能を理解するための調査や将来必要な病床機能において、それぞれの病院が担うべき役割を意見しあう機会をもつなどはいかがか。

○ICT連携については、他自治体等とのシステム上の連携が取れるのかといったところが課題。